

～幼保小の子どもたちの学びと育ちをつなぐ～

架け橋通信



第11号

令和7年3月発行

京都市教育委員会 学校指導課
幼保小の架け橋プログラム担当
TEL:075-222-3746

令和6年度
幼保小連携・接続主任研修会Ⅱ

スマートポータルにアップ！
(スマートポータル⇒ピックアップ⇒幼保小の架け橋プログラム)

★幼保小連携・接続主任になる(なった)先生方

「幼保小の架け橋プログラムの推進役として
何を？ どのように？ どうする？」

研修の内容

- 1 就学前施設とのコミュニケーション～連携先が決まれば～
- 2 架け橋ミーティング
- 3 幼保小の架け橋プログラム年間計画の作成
- 4 入学式
- 5 スタートカリキュラム～幼児期の学びや育ちを意識して～
- 6 学校行事参加のお誘い
- 7 交流活動
- 8 校内研修企画・運営
- 9 公開授業・保育参観で学ぶ機会を(保育者・教員)
- 10 合同研修会の企画・運営
- 11 半日入学～次年度を迎える重要な取組として～

必見！

●幼保小連携・接続主任が、管理職や教職員、就学前施設の先生方と一緒に取り組んでいく具体的な内容がまとめられています。

●「取組の工夫」と「成果」が分かります。自校園の取組の参考に！！

●「京都市幼保小架け橋プログラムの手引き」の関連ページも紹介。手引きと合わせてご視聴ください。

★令和6年度幼保小連携・接続主任研修会Ⅰ(5月14日)「幼保小連携・接続主任の役割」も併せてご視聴ください。

★幼保小連携・接続主任がリーダーとなって、各小学校で架け橋プログラムを推進していきましょう。架け橋プログラムの進め方や研修会の持ち方などについて、お困り、お悩みがあれば、些細なことでも架け橋コーディネーターにご相談ください。 連絡先 教育委員会学校指導課 TEL 222-3746

京都市幼保小の架け橋プログラムの手引き・スタートカリキュラムの手引きなどを活用

入学式から始まる

スタートカリキュラムを進めましょう

新1年生に大切なのは

安心感

自己発揮

全教職員で共通理解し、協力して新1年生を迎え、育ちを支えましょう。

入学式

今までのやり方にこだわらず、1年生が安心して参加でき、明日を楽しみにできる一日に！！

先生や友達との関わりや、幼保に近い環境から生まれる安心感

明日から始まる小学校が楽しみ！！

架け橋プログラムの手引き 63ページ参照

幼保などの環境、やり方を取り入れましょう。

子どもの思いに寄り添い声を掛けていきましょう。



机がなく先生との距離も近い。幼稚園でもこうして先生の話聞いたよ。

保育園でも椅子に座って話を聞いたよ。

こども園でもメダカや虫を飼っていたよ。

机と椅子を丸く並べると、お友達のことがよく見えるよ。



*入学式後、子どもたちが、教室で担任や友達と過ごす間、体育館では、担任以外の先生が入学に際しての説明を保護者にしています。

入学式翌日から、はじめの3日間のスタートカリキュラム例

◆折り紙、絵本、絵を描くコーナー等
幼保に近い環境で選んで遊べる。

見てわかる
あさのようい

◆写真やイラストを使って
分かりやすく→自分で見
て考えてできた!!

幼保の遊びを取り入れた
あそびたいむ



【絵本の配置は、見やすく手
に取りやすい】



【ロッカーの使い方を明示】



【上靴を履く場所を明示】



【友達や先生と近い場所で】

【幼保での遊びを先生や
友達と一緒に】→安心感

【子どもの様子を見守り、で
きたことを認める】→自信

弾力的な時間割

◆時間は柔軟に15分や30分に分割したり2時間を一枠として、内容を考えたり子どもの実態に合わせて工夫する。時間割を柔軟に変更できるよう、1、2時間目の境は点線で表記。



【穏やかな時間設定と安心できる環境】

	ごぜんちゅう じゅぎょう	ごぜんちゅう じゅぎょう	ごぜんちゅう じゅぎょう
	あさのようい	あさのようい	あさのようい
	あそびたいむ	あそびたいむ	あそびたいむ
1	あいさつ げんきしらべ あさのようい は?	あいさつ げんきしらべ おどろう	あいさつ げんきしらべ よみきかせ
2	よみきかせ きょうかしょを みてみよう	おどろぐば なにに入れる? きょうかしょを みてみよう	がっこうって どんなところ? といれに いってみよう
3	といれに いってみよう おどってみよ う(たいいく・ おんがく)	といれに いってみよう くうびいで えをかこう (ずがこうさく)	おはなし づくり おどってみよ う(たいいく・ おんがく)
4	かえるようい をしよう あんぜんに かえろう	かえるようい をしよう あんぜんに かえろう	かえるようい をしよう あんぜんに かえろう

幼児期の経験を教科へつなぐ

◆「幼保でどうしていた?」「どうしたい?」と子どもの思いや幼保での経験を引きだす。



【幼稚園にも絵本室
があったよ、ここは
図書室だね】

【地図を持って友達と思い思いに
学校探検→生活科】



【リズムを感じて、楽しい
踊り↓音楽科、体育科】

【幼保の経験や子どもの思いや
考えを生かす】→自信をもって
自己発揮

終わりの会では「今日も一日楽しかったな」「明日も楽しみだな」との思いがわいてくるような工夫を!

毎日が楽しい!
小学校生活へ

【子どもの興味・関心に応じて
時間割を変更】→安心感

◆休み時間の活動は制限せず、他学年と中間休みをずらして校庭で遊んだり、室内では幼保で経験した遊びができるように環境を整えたりして、楽しく意欲的に過ごせるようにする。

◆子どもたちが安心して自己発揮していくために、スタートカリキュラムは学校や子どもの状況に応じて、1か月から1か月半の間続きます。学習規律を急いで徹底するより、なぜそうすることが良いのか、子どもたちと共に考え、子ども自らが必要感をもって取り組めるように!

コラム

なかにしサンヨの 幼分補給

「京都市幼保小架け橋シンポジウム」こぼれ話

2月14日3年間の集大成とも言えるシンポジウムを開催しました。全国各地から午前中の3研究プロジェクトでの分科会、午後の全体会にオンライン配信も含めて、のべ800名の方が参加してくださいました。やはり3研究プロジェクトが公開保育・授業をしてくださってこそだと思います。保育や授業は年長児や1年生の幼保小のつながりを意識したものや実際の交流活動もありました。文科省の指定を受けている京都市で、小学校を始め、民間園さんも含めた幼児教育施設が公開できたことは、大変意義深いことだと思います。分科会での指導・講評、全体会での各報告、本音トークのパネルディスカッション、無藤先生の特別講演も実り多き学びの場となりました。そして、とある大学の先生のご感想「一番の驚きは、昨年度年長組の担任をしていた先生が子どもたちと一緒に卒園して、隣の小学校の1年生の担任になっていたこと。一人一人のことを受け止めつつ、先生は『うれしいね』などの心の言葉を返すので、子どもたちが安心してクラスで過ごし、子どもらしく好奇心に満ちて『したい』気持ちで充実しているクラスでした」と嬉しいご意見。幼から小へ、小から幼への人事交流ができるのも京都市の強みでしょうか。異動した本人は、毎日が悩みの連続なのですが(経験者は語る)まさしく自身が架け橋になって日々奮闘です。でも、子どもが助けてくれますから...。新たな挑戦は心弾みます。

いよいよ令和7年度から全市で幼保小の架け橋プロジェクトの始まりです。双方ともに「主体的・対話的で深い学び」を目指し、まずは、「一歩」踏みだしたいですね。



中西 昌子(なかにし しょうこ)
京都市教育委員会 学校指導課 参与
市立小学校教諭、幼稚園教諭・教頭、
竹田幼稚園長、市教委首席指導主事を
経て、平成三十年から現職。